

中大ハイク



今年も4月25日(日)に「中大ハイク」が行われました。当日は素晴らしい快晴のもと、4歳から82歳まで334名の方が完歩されました。今回の感想にもありますが、近年はウォーキングブームの影響で一般参加の方が増える傾向にあります。でも、「中大ハイク」はもともと1960年代後半にみなさんの先輩が中大生のためにはじめたナイトハイク(後楽園キャンパスから多摩キャンパスまでの約50kmを夜通し歩く行事)の流れをくむ行事なんです。現在はデイハイクとなり、コースも大学周辺を巡るコースとなりましたが、みなさんにとって魅力的な「中大ハイク」になるよう随時アイデアを募集しています。来年も実施を予定していますので、ぜひ参加してください。

「中大ハイクに参加して」

商学部1年 藤牧 慶充

私が今回中大ハイクに参加したのは、ポスターを見たからです。その日に特にすることがなかったのと、大学生活を充実したものにしようという思いで、この行事に参加すればきっといい経験になると思いました。私は友達を誘って行きました。彼とは同じサークルですが、まだ知り合って間もなく、今回の行事でさらに仲良くなれたらいいなと思いました。

当日の天気は晴れ。中央大学をスタートして多摩センターまで歩いて行くコースです。私は札幌出身なので、中央大学周辺を知るいい機会だと思いました。当日集合場所にいたのは、地域の人達がほとんどでした。あとはコスプレをした人達が多数見られました。暑いのにダースベイダーの格好や、和服を着ていました。一般参加があったようで、コスプレをしていたのは棒術部さん達でした。新入生の私達のように参加した人は、ほとんどいませんでした。少し驚きましたが、友達と話をしながら歩くのも楽しいし、健康にいいので最後まで歩こうと思いました。

応援団のかけ声とともにスタートしました。肩には中大でぬぐいを、手にはお茶。二時間くらい歩いた後、目の前に中大生らしき女の子が二人歩いているのに気付きました。話しかけると彼女達も中大の一年生で、私達と同じように中大ハイクに参加している人達でした。私は同じ仲間を見つけた気がして、嬉しくなりました。しばらくこの4人で話をしたり、歌を歌っ



たり、モノマネをしたりして一緒に歩きました。しかし途中で別れてしまいました。

中大ハイクも終盤にさしかかったあたりで、おばさんが道を尋ねてきました。私達は彼女と一緒に歩くことになりました。彼女はだんなさんと申し込んだのだけれど、当日来れなくなったので、1人で来たのだそうです。私達が北海道出身だというと、彼女は目を輝かせて、北海道での観光の話をして下さいました。北海道ではガイドの人がとても親切で、それ以降北海道の人が大好きになったそうです。旅や歩くことが好きで、先日にはネパールにも行ったそうです。彼女は、日本人は欲しい物はすぐ手に入ってしまうため、心が貧しくなっていると、おっしゃいました。私は彼女の、色々な事に挑戦しようとする気持ちと、そこから得る感受性を大切にしている姿に感心しました。中大ハイクという行事を通して、普段では話すこともなかったであろう人達と話せて、とても良かったです。また機会があれば、来年も参加したいと思いました。